

萩ジオパーク

推進協議会だより vol.135

萩ジオパーク推進協議会

| 2026年5月31日発行 |

〒758-0041

山口県萩市大字江向602 萩・明倫学舎本館2階

☎ 0838-21-7765

☎ 0838-25-7767

✉ geo@city.hagi.lg.jp

🌐 <https://hagi-geopark.jp>

📘 <https://www.facebook.com/HagiGeoProject>

📷 @hagi_geopark



川上藍プロジェクト、今年度始動

萩市川上地区で、藍を地域の産業として根づかせようとする「川上藍復活プロジェクト」が3年目を迎えました。栽培・染め・食・観光・教育など、異なる得意を持つ地域の人々が集まり、「川上の大地が育む藍」を軸に活動を重ねてきたプロジェクトです。

4月30日、今年度のキックオフ会議が開かれました。会の前に立ち寄った畑では、3月に種まきしたタデアイが小さな芽を出していました。会議では、それぞれの立場から言葉が語られましたが、根っこにある思いは一つ。「この土地の水と土と気候があってこそ育つもの——それを、もう一度この地で」。

川上で藍が育つのは、この土地の地形・地質・水・気候があってこそです。大地のルールに沿った営みが結果として持続可能な産業を生む——そのことを言葉ではなく現実のかたちで示すことが、萩ジオパークがこのプロジェクトに伴走する理由です。農業のプロ、染め職人、萩焼作家など、さまざまな得意を持ち寄った輪はじわじわと広がっています。



Mine秋吉台ジオパークがユネスコ世界ジオパークに認定！

萩ジオパークのお隣のMine秋吉台ジオパークについて、昨年9月、ユネスコ世界ジオパークへの承認が勧告されたことを、本紙127号でもご紹介しました。その後、本年4月23日にフランス・パリのユネスコ本部で開催された会議において、Mine秋吉台ジオパークは正式に「ユネスコ世界ジオパーク」として認定されました。



画像提供：Mine秋吉台ジオパーク推進協議会

同ジオパークには、秋吉台や秋芳洞をはじめとする国際的に高い価値が認められた地質・地形があり、それらの保全活動や教育、地域振興などの取組が高く評価され、今回の認定につながりました。

萩ジオパーク推進協議会では、以前からMine秋吉台ジオパークの皆さまと交流を続けてきました。これを機に、隣接するジオパーク同士として、なお一層、教育活動やイベントなどさまざまな分野で交流・連携を深めていきたいと考えています。

Mine秋吉台ジオフェスに出展しました

4月25日、Mine秋吉台ジオパークのユネスコ世界ジオパーク認定を記念したイベントに出展しました。「地形模型をつくろう～秋吉台ver～」と題し、石灰岩が溶けて生まれたドリーネが広がる秋吉台ならではの地形を、模型を塗りながら体感していただきました。穴だらけの不思議な地形に「なんでこんな形になるの？」と目を丸くする子どもたちの姿が印象的でした。



第11回 森フェスに出展しました

5月4日（みどりの日）、徳地で開催された「森フェス」に今年も出展しました。「地形模型をつくろう・山口の山々ver」に約80名が参加。「去年のを部屋に飾っています」「これのために来ました」というリピーターの声がうれしく、夢中になって2時間かけて仕上げた子どもの姿が印象に残りました。手のひらの中の山々が、少しずつ萩ジオパークと地域をつなぐ橋になっていると感じた一日でした。



学校教育レポート（5月）

5月18日に田万川中学校（1年生11名）、19日に美祢市立伊佐中学校（1年生9名）を対象に、現地学習に向けた事前授業を行いました。田万川中は地形図から「萩はなぜここにある？」を問いかける学校訪問型の授業、伊佐中はオンラインで、萩の城下町と阿武川を「大地と人のつながり」という視点で読み解き、現地学習への期待感を高めました。どちらも、現地でさらに深く大地を感じてもらうための最初の一步です。



鳶ノ巣3周年!

笠山山頂展望台は令和5年4月29日に愛称を『鳶ノ巣』とし、萩ジオパーク推進協議会が一体的な運営を始め、今年で3周年を迎えました。

4月29日には3周年のおもてなし企画として、山頂火口で火山噴火実験などを来場者の方に楽しんでいただきました。また、同日からGW限定のカフェメニュー「笠山をイメージしたフローズヨーグルト」やリニューアルしたご当地コーヒー「笠山」の販売も行われ、カフェで一休みされたり、展望台からの景色を楽しみながら写真撮影をしていた方もいらっしゃいました。



笠山明神池駐車場に笠山のジオパーク見どころ案内看板を設置

笠山の入口にあたる明神池駐車場に、風穴や山頂などを含む笠山全体の見どころを紹介する案内看板を萩市が設置しました。

約1万年前に噴火した笠山は萩ジオパークの見どころが数多くあります。看板をご覧になった観光客の方などが、笠山全体を周遊しジオパークのスポットを巡っていただければと思っています。



鳶ノ巣カフェ スタッフより 6月に見頃を迎えるアジサイ

梅雨が近づいてくるとピンク、白、ブルーなど、色とりどりのアジサイが咲きます。笠山山頂の駐車場周辺や、山頂展望台周辺などでもご覧いただけます。毎年、アジサイを楽しみに笠山へ来てくださるお客様もいらっしゃいます。個人的には、ブルーのガクアジサイが好きで、毎年見頃をとっても楽しみにしています。

以前、アジサイの時期に自宅から持ってきたアジサイをCAFEに飾っていたところ、お客様から「とてもかわいいアジサイですね」とお声掛けいただき、後日お手紙までいただいたことがありました。アジサイを見るたび、その時の嬉しい記憶がよみがえります。今年も、アジサイを楽しみに来てくださる方がいらっしゃると嬉しいです。



わっきー教授のジオ・ワールド ⑱ 天山山脈北部（中国新疆ウイグル自治区独山子）

中国北西部の新疆ウイグル自治区の独山子は、天山山脈の北麓、ジュンガル盆地の南西縁に位置しています。独山はウイグル語で「マイタク」と呼ばれ、油山という意味らしいです。独山子は、中国でも有数の石油産出地域であり、中国における石油工業発祥の地の一つでもあります。写真を見ていただくと、写真の中央に黒い池が見えます。これらは、自然に噴出した石油でできた池です。周りの赤い地層が緩やかにカーブを描いているのは、上に凸の褶曲をしていることを示しています。石油の多くは、地層が上に凸の褶曲をしている場所に溜まっています。ここでは、石油が溜まっていた上側の地層が削剥されてなくなったので、地表に噴出して、池を作ったのでしょう。自然に出来た石油の池を見たのは、私もこれが初めてでした。天山山脈は、ヒマラヤから遠く離れていますが、インド大陸がアジア大陸と衝突した影響は、この付近まで現れており、山が褶曲しながら、急激に上昇しています。この石油が出来たのも、前回のエベレストの上昇と無関係ではないのです。



弥富溶岩露頭（伊良尾山溶岩流の断面露頭（龍のうろこ））の復旧が完了

昨年8月の大雨により一部が崩落した弥富溶岩露頭の復旧が2月に完了しました。

弥富溶岩露頭は「龍のうろこ」ともよばれ、約40万年前の伊良尾山の噴火によって流れた溶岩流の断面を観察できる崖です。溶岩流の断面を弥富の中心部で見学できますので、是非お立ち寄りください。



6月～7月上旬の予定

※本紙の編集時点で協議会事務局が把握している情報のうち、協議会主催・共催の行事やジオパークの運営・推進に関わる公的な会議・取組、および一般の方々を対象とした行事を中心に掲載しています。

○日本ジオパークネットワーク第19回通常総会 7月2日(木) 場所:日比谷図書文化館(東京都) 内容:2025年度事業報告・決算、2026年度事業計画・予算等の審議 主催:日本ジオパークネットワーク